

---

The world without the star. **星の無い世界。**

璃世

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

The world without the star . 星の無い世界。

### 【Nコード】

N8541G

### 【作者名】

璃世

### 【あらすじ】

君が居たら、こんな時こう言ってくれる。こうやる。こういう表情をして、こう笑ってくれる。……。けどそれは確認の仕様が無い、思い出を辿った不確かなことだ。忘れるのがつらい。けど覚えてるのも寂しい。どうすれば良い？分からないから、僕は痛みを用いて君の居ない世界を、生き延びている。銀色のぎりりとした刃を押し当てて、紅いのを……。ただ望むのは、君との日々。僕と君の話。

## (前書き)

リストカットの話です。

痛々しい描写は多分無いと思うけど、  
共感するのは難しいかもしれません。

「リスカかよ」と思った人は止めた方が良いです。

君はいつか帰ってくる？  
帰ってくることは無い。  
けど帰ってくることを信じてる。

君は僕を許してくれる？  
きっと優しい君のこと、甘く笑って、絶対に許してやらないって言うってくれる。  
けど、分からない。

君は僕を、好きでいてくれる？  
それは誰にも分からない。  
けどできるならお願い。

だってもう君は、  
．．．．．居ないんだ。

だから、  
死にたくなった。  
閻魔サマが君と同じ世界に送ってくれるか、  
それが一番の問題かな。

天国？  
地獄？  
どっち？

ああ、僕は罪深いから、きっと地獄。  
君が地獄に居るんならそこが良い。  
居ないのならば、むしろ。

生きたい。

死んでも、死ななくても君が居ないなら。

僕の罪深きを償って、生きたい。

できるなら、もいっかい『此処』に君を寄越してくれる？

おぎゃあと泣いて、また生まれて来てくれる？

生まれたとき泣いてるのって、どっちなんだろう。

それは、喜んでるの？

「生まれてこれたぜ、ハッピーラッキーついてる自分」

って、泣いて喜んでるってことなの？

もしかしたら、悲しんでるの？

「こんな世界生まれたくなかったのに、アンラッキーついてねえ自分。」

って、泣いて悲しんでるの？

じゃあ、僕はどっち？

生まれてきたことには喜び、

今君の居ない世界の一員であることに悲しみ、

死んでるみたく、生きてるんだよ。

「可哀想。」

とか思われたくねー。

それは『失くしちまった僕』に対しての浅はかな同情。

同情なんて傷口に染みて、邪魔なだけ。

同情が欲しいんじゃないの。

愛、

が欲しいの。

変わらないヤツじゃなくて良い。

ちよくちよく変化してくれて良い。

揺るぎ無い愛なんて恐ろしいから。  
僕を包んでくれる、ただひとつで十分、  
愛が欲しい。

心がひりひりしてんの。

傷が痛いんじゃないんだ。

この傷は、僕がえぐったんだから。

傷なんて、ほんとは全然痛くないんだよ？

・・・ほんのちよつと、目から水が出てくるけど。

それは哀しいからであつて。

傷が痛いなんて、じゃあ悲しみが浅いんじゃないの？

「可哀想。」

とか思いたくねー。

そんなの逃げじゃねえか。

つて、刃を自分に向けておいて、言えないけれど。

可哀想なんて思ったら、一気に思い出が崩れてっつてしまう。

だから、選んだ。

さあ、『痛み』に逃げようか？

さあ、『同情』に逃げようか？

どっちが良い？

そこを僕はあえて、痛みを選んだ。

刃を押し当てた手首。

ぷつりと肉が切れる。

紅いのが滴り落ち。

ソレをまた赤い口ですくう。

鉄の味。

白くなる肌。

目から落ちてくる、透明なの。

君はきつと、今の僕を見て泣くんだろう。

銀色から始まって、赤や紅、白と、透明な涙。

「なんでそんな痛いことをするの？」

そう言うに違いない。

けどね。

君の居ない世界はいわば、・・・そうだな、星の無い世界なんだ。

君は大好きな星のことを諦めないといけないの。

この痛いことは、僕の気休め。

君の居ない世界で生きてきた証拠。

だから許して。どうか受け止めて。

・・・ああそうだ。

君が還って来てくれたら。

こんなのすぐ止めるよ。

むしろ、

死んでもいいよ。

「それじゃあ意味が無いでしょうが。」

君が居たらきつと、こう言ってくれるだろうね。

けど居ないから。

僕は今日も、痛みに頼る。

・・・ごめん。

(後書き)

最近はやが不安定なんで小さく切ってしまいました。

リスカとまではいかないまでも、

切ったことには変わり無く、傷がたくさんになって来た・・・。

だから変わりに、書こうと思ったんです。

痛いのはんとは、嫌いだから。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8541g/>

---

The world without the star. 星の無い世界。

2011年1月28日02時32分発行